

生徒の学習状況についての実態および定期考査等を含む 学力調査の結果等を踏まえた内容別・観点別の分析表

【理科】

〈学習状況についての実態〉

- ・理科に関する興味・関心は極めて高いが、1年生における実験観察の技能が身に付いていないため基本から指導している。科学的思考・表現に関する事項の関して苦手意識をもっている生徒が多い。
- ・知識・理解が全体的にやや不足している部分が見受けられる。
- ・抽象的な表現・概念に対する理解度がやや低めで苦手意識をもっている生徒が多い。
- ・年々基礎的な四則演算の力が不足していることが目立ってきている。

〈区学力調査の分析〉

- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」ともに平均値を上回っている。
- ・内容の分析としては、「科学的な思考・表現」の観点について、正答率が低くなっている。

〈都学力調査の分析〉

- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」全て都の学力平均を上回っている。
- ・内容の分析としては、都平均を大きく上回っているものの、解決する力が非常に低い。また、文章や図表の中から必要な情報を正確に取り出す力がやや不足している。

〈今後の課題〉

- ・関心・意欲の高さを知識量へとつなげて、さらなる学力の向上に結び付ける。
- ・文章や図表などから、その内容を丁寧に読み取ることで情報と付加的な情報に分けたり、見出したりする力を身に付けさせる。
- ・自分の意見を筋道を立てて作り上げ、まとめることで表現できる力を身に付けさせる。
- ・理科の学習だけでなく言語活動や数的な取り組みの機会を増やし、総合的な基礎学力を高める。